

[製造業]

医療福祉用具  
(膝装具)

■企業プロフィール

〒791-0054  
愛媛県松山市空港通3丁目6-34  
ウエストビル松山1F  
TEL/089-989-7307  
FAX/089-989-7308  
設立/平成17年3月  
資本金/300万円  
事業内容/医療福祉用具の開発・製造・販売  
inosan2200@lagoon.ocn.ne.jp

■社長プロフィール

長谷川 學  
1939年松山市生まれ。松山商科大学商経学部卒。愛媛県保健福祉部長など歴任後、済生会常務理事を経て2006年3月より(有)愛トリノ代表取締役。  
座右の銘は“挑戦”  
趣味は極真空手。



代表取締役 Manabu Hasegawa  
**長谷川 學**  
頑張る意欲を助け、  
元気な高齢者をつくりたい

- スロージャン
- 膝関節患者を減らし、寝たきりにならない元気な高齢者をつくる
- 愛媛産の素材や技術をもって、高付加価値の製品を開発・製造する
- オリジナル製品サービス
- 変形性膝関節症の治療用膝装具3D モーションブレース「3Dなでしこ」
- 損傷膝の保護・治療用膝装具エクステンションブレース「EXTベガサス」

伸びる、縮む、ひねるの3Dで  
膝の動きをスムーズに誘導

40歳以上の日本人の5人に1人が罹るといわれる変形性膝関節症。重症化すると腫れや痛みが強まり、関節部分がO脚化することもあり。患者の7割を女性が占めるのは、男性に比べて筋肉がたく、関節に負担がかかるため。膝を支える筋力をつければ、痛みは軽減する。そこに着目して開発されたのが、この膝装具(ブレース)である。平成12年、済生会松山病院において治療用の補助器具として開発を開始し、平成17年、製造・販売会社である有限会社愛トリノを設立。以後、連携して改良を重ね、平成21年「曲げる・伸ばす」という2次元の動きにひねりを加えた3Dモーションの技術を開発。高機能性膝装具「3Dなでしこ」が誕生した。

痛くて歩けない  
膝関節患者を減らしたい

「3Dなでしこ」は膝関節症の治療薬ではない。歩行時の痛みを緩和させる、保存療法の手段のひとつである。膝関節に変形のある人は歩き方も異常になっていることが多い。それを3Dモーションによって健康な人と同じ動きに誘導することにより、歩行時の痛みを和らげる。継続して使うことで筋力が回

復し、O脚の矯正や膝関節症の進行を抑える効果も期待できる。糖尿病などで手術ができない患者にも有効。平成24年に実施した臨床試験では、被験者のうち6割の患者が装着直後から痛みとの緩和を実感し、1ヵ月後には86%の患者が膝痛の軽減効果を認めている。膝の病気は歩行困難から寝たきりや痴呆につながるから、同製品は高齢社会における寝たきり予防や医療費低減にも役立つものと期待されている。

将来的には予防医療、  
術後回復に展開

変形性膝関節症の発症予備軍は1600万人ともいわれる。今後はこうした潜在的患者にいかに関係発信していくかが課題である。また損傷膝の術後の保護・治療用装具として開発した「EXTベガサス」はスポーツ選手の治療にも利用されており、将来的には健康者をターゲットとした予防医療やスポーツ的な使用も視野に入れていく。肥満大国である欧米への進出も目指す。現在、愛媛産の素材や技術をもって薄型・軽量化、装着感、デザイン性を追求し、さらに付加価値の高い製品を目指して開発を進めている。

有限会社愛トリノ  
日本、欧米8カ国で特許取得  
膝装具のグローバル企業を目指す

